

サッカー×アート

日本サッカーのシンボルをめぐる

日本サッカー協会のシンボルである「三足鳥」。これを発案したのは、東京高等師範学校・東京文理科大学(現:筑波大学)の教授であった内野台嶺(1884-1953)と東京美術学校(現:東京藝術大学)を卒業した彫刻家の日名子実三(1892-1945)らであった。内野は、漢文学を専門とし、大日本蹴球協会(現:日本サッカー協会)の初代理事の一人を務めた。彼らは内野の先輩であり、日本のサッカー普及に尽力した中村覚之助(1878-1906)の出身地であった熊野のシンボル「八咫鳥」に着想を得て、「三足鳥」をデザインしたとされている。

このように、日本サッカーの歴史には、現在の筑波大学と東京藝術大学が関わっている。2020年夏には1964年以来となるオリンピックが開催される。本シンポジウムでは、このオリンピックを見据えて、サッカーとアートのコラボレーションの歴史を振り返りたい。



JFA(日本サッカー協会)シンボル

プログラム

司会:小井土正亮(筑波大学体育系助教・筑波大学蹴球部監督)

13:00	開催挨拶	永田恭介(筑波大学 学長)
13:05	趣旨説明	太田圭(筑波大学 芸術系長)
13:15	基調講演	HIBINO meets SOCCER 日比野克彦(東京藝術大学 美術学部長・日本サッカー協会 社会貢献委員長)
14:10	休憩	
14:20	講演①	三本足のカラスはどこから来たかーシンボルの由来をたどる 植山満照(早稲田大学文学学術院 講師)
14:45	講演②	三足鳥と内野台嶺 小松建男(筑波大学人文社会系 教授)
15:10	講演③	内野台嶺と中村覚之助 中塚義実(筑波大学附属高等学校保健体育科 教諭・NPO法人サロン2002理事長・日本ヤタガラス協会副会長)
15:35	講演④	時代を映す彫刻家・日名子実三 宮坂慎司(筑波大学芸術系 助教)
16:00	休憩	
16:15	ラウンドテーブル	日比野克彦+太田圭+真田久(筑波大学体育系 教授)
17:00	閉会挨拶	



内野台嶺(うちのたいけい)

神奈川県橘樹郡大綱村(現:横浜市)出身。1909年の東京高等師範学校を卒業後に教師として赴任した東京府豊島師範学校では、サッカー部を設立し普及に努め、1917年には日本初のクラブチーム東京蹴球団の設立に尽力。1921年に大日本蹴球協会(現日本サッカー協会)の創設に尽力。内野は初代理事の一人として、東京蹴球団の団員達も理事や委員として運営を担った。



中村覚之助(なかむら かくのすけ)

1878年、和歌山県東牟婁郡那智町(現:那智勝浦町)浜ノ宮で生まれ。1900年東京高等師範学校(現:筑波大学)に入学。1903年イギリスの本を翻訳、さらに編集をし日本最初のサッカー指導書「アソシエーションフットボール」を東京高等師範学校蹴球部(現:筑波大学蹴球部)の名で出版。東京高等師範学校を卒業後翌年、清の山東省済南師範学校へ国から派遣された。



日名子実三(ひなご じつそう)

白杵中学校(現:大分県立白杵高等学校)を卒業後、1913年東京美術学校彫刻家塑造部へと入学し首席で卒業。学生時代から朝倉文夫の弟子として学び、1919年には作品「晩春」が帝国美術院展覧会に入選する。1925年に作品の方向性の違いから独立することを選び、斎藤素蔵と共に構造社を結成する。1931年には、漢文学者・内野台嶺らの発案を基に八咫鳥を題材に、大日本蹴球協会の「シンボルマーク」を手がける。

日時:2020年1月26日(日)

場所:桐陰会館(筑波大学附属中学・高等学校敷地内)

アクセス

〒112-0012
東京都文京区大塚1-9-1
筑波大学附属中学・高等学校敷地内 桐陰会館

東京メトロ
丸の内線 茗荷谷駅より徒歩10分

東京メトロ
有楽町線 護国寺駅より徒歩8分

自家用車での来場はご遠慮ください。

主催:筑波大学芸術系
後援:公益財団法人日本サッカー協会、筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブ
独立行政法人日本スポーツ振興センター・秩父宮記念スポーツ博物館
NPO法人日本スポーツ芸術協会、日本ヤタガラス協会、熊野三山協議会
NPO法人サロン2002

問い合わせ先:水野 裕史(筑波大学芸術系 助教)
E-mail: myuji@geijutsu.tsukuba.ac.jp

